

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 文化振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム		
施策名	【重点】文化とスポーツの力を活用した地域の活性化		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	36.0	37.0	38.0	38.0
現況値	29.1% (2015年度)	実績値	30.6	28.8	40.4	28.0
目標値	38.0%	達成率	85%	77.8%	106.3%	73.7%
備考	県民満足度調査において、「満足」「やや満足」と回答した者の割合	達成度	3	2	4	2

3 事務事業評価

環境文化部 文化振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	芸術文化育成・支援事業	<p>実施目的 文化芸術による地域の活性化を図るため、岡山県にゆかりのある芸術家に作品発表の場を提供するとともに若手・新人作家に対して活動・発表の場を提供し、創作活動を支援することで次代を担う芸術家を育成し、加えて県民に対して優れた芸術に触れる機会を提供する。</p> <p>成果・課題 企画公募により、岡山県ゆかりの美術作家と若手・新人作家を組み合わせ、その活動・発表の機会を設けて創作活動を支援するとともに、地域で優れた芸術に触れる機会を提供し、文化芸術による地域の活性化に貢献した。今後は、美術作家にだけでなく、音楽家や舞蹈家など、次世代を担う意欲のあるアーティストの発掘に努め、活動の活性化を促していく。</p>	4

環境文化部 文化振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	アートで地域づくり実践講座事業	<p>実施目的 地域にある文化素材等を生かした集客力のあるアートイベントの企画やコーディネイトができるキーパーソンを育成することによって、県内各地で文化芸術を活用した地域の魅力発見、イメージアップとにぎわい創出の促進を図る。</p> <p>成果・課題 新型コロナウイルス感染症の影響により、講座を中止した。今後の講座の実施や過去の受講修了生の活動促進につなげるため、今までの講座の内容を編集したテキストを作成し、配布した。今後も講座で育成されたキーパーソンが自発的に活動し、県内各地で文化芸術活動が広がっていくよう働きかけていく必要がある。</p>	2

環境文化部 文化振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	オーケストラの鑑賞機会の提供	<p>実施目的 オーケストラの演奏を聴く機会が少ない地域での鑑賞機会を提供する。</p> <p>成果・課題 岡山フィルハーモニック管弦楽団により、矢掛町及び総社市においてオーケストラによる特別公演を行った。コロナ禍での開催であったが、いずれの会場も80%以上の入場率があり、来場者のアンケートでも8割以上の方から高評価を得たことから、引き続き、オーケストラの演奏を聴く機会が少ない地域において公演の実施を検討する必要がある。</p>	4

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 スポーツ振興課	トップクラブチームサポーター拡大事業	実施目的 スポーツに取り組む人たちが各トップクラブチームのサポーターの拡大を図る。 スポーツを通じて県民の一体感、地域の活性化を高めるとともに、岡山の名を情報発信する。	2
		成果・課題 トップクラブチームの試合を活用した「県民応援デー」では、各種イベントで会場は盛り上がり、来場者アンケートによると回答者の約9割が「県民応援デーを積極的に行うべき」と回答するなど、県民の一体感、地域の活性化を高める上で、一定の効果につながった。	
平均			3.0

4 施策達成レベル

2.2	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

文化施策では、岡山県ゆかりの若手・新人美術作家に作品発表の場を提供することで次世代を担う芸術家の育成やオーケストラの演奏を聴く機会が少ない地域において良質な音楽鑑賞の機会を提供することができた。なお、アートイベントの企画・実施のできる人材育成講座は新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされたため、テキスト資料を作成し、次年度以降に活用することとしている。

また、スポーツ施策では、トップクラブチームの試合を活用した「県民応援デー」において、各種イベントを実施し、スポーツを通じて県民の一体感を高め、地域の活性化を推進することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

文化施策においては、次世代を担う美術作家の育成及び文化芸術に着目した地域活動を実施できる人材育成講座の開催並びにオーケストラの演奏を聴く機会が少ない地域において良質な音楽鑑賞の機会の提供を引き続き取り組む必要がある。

また、スポーツ施策においては、事業の成果を高めるため、引き続き魅力あるイベントを実施し、スポーツに関わる人材のさらなる増加を図る必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 スポーツ振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム		
施策名	【重点】生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりの推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	50.0	50.5	51.0	52.0
現況値	49.5% (2014,2015年度の平均)	実績値	50.3	50.4	48.5	59.5
目標値	52.0%	達成率	100.6%	99.8%	95.1%	114.4%
備考		達成度	4	3	3	4

3 事務事業評価

環境文化部 スポーツ振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	ライフステージに応じたスポーツ活動促進事業	<p>実施目的 幅広い世代の人々がライフステージに応じ、身近な地域で各自の興味、関心、競技レベルに合わせて、様々なスポーツに触れることにより、県民の健康維持・増進を図る。</p> <p>成策・課題 幼児期の取組には、延参加者数11名(スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ関係者、児童福祉関係者等)、高齢期の取組には延べ参加者数320名であった。参加者が増加するよう、実施時期の見直しや、チラシやホームページを工夫するなど、効果的な周知に努める。</p>	2
平均			2.0

4 施策達成レベル

3.6	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを 4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

幼児期の取組には延べ11名、高齢期の取組には延べ320名が参加し、各自のライフステージに応じて、様々なスポーツに触れることができるような機会を提供することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

幅広い世代の人々がスポーツに触れることができるよう、チラシ等の周知方法や実施時期は一部見直しを進め、インターネットを通じた情報提供については、閲覧件数の増加を目標に引き続き効果的な改修等を進める。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 文化振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム		
施策名	【重点】東京オリンピック・パラリンピック等を通じた地域活力の醸成		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	4	9	15	20
現況値	0件(2015年度)	実績値	9	22	34	36
目標値	20件(4年間累計)	達成率	※225%	244.4%	226.7%	180%
備考		達成度	※5	5	5	5

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	400	800	1,200	2,000
現況値	—	実績値	226	618	981	1,173
目標値	2,000件(4年間累計)	達成率	56.5%	77.3%	81.8%	58.7%
備考	文化の祭典でもある東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国等が認定する文化イベントの件数	達成度	2	2	3	2

3 事務事業評価

環境文化部 文化振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	文化芸術アソシエイツ事業	<p>実施目的 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、文化プログラムへの参画を促進するため、「おかやま文化芸術アソシエイツ」を設置し、文化団体等の活動を支援する。</p> <p>成果・課題 専門人材を配置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」は文化団体等の相談に積極的に対応し、文化芸術団体を中から支える職員の研修会も開催した。また、「文化芸術交流実験室」(4回/2020年度)は、文化の各分野はもとより、建築など新たな分野との交流を通じて文化資源を掘り起こし、県内の人材や文化資源の横断的な出会いの場を創出するとともに、新たな文化情報の発信に取り組んだ。</p>	4

環境文化部 文化振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	アーティスト滞在・交流事業	<p>実施目的 アートを活用した地域の活性化促進を図るため、国内外からアーティストを県内の地域に招へいし、地域資源を活用した短期滞在制作を行うことにより、県民が優れた芸術に触れる機会を提供するとともに、地域の魅力をアートの視点で掘り起こし、発信する。</p> <p>成果・課題 招聘アーティストが地域と交流を図りながら、地域資源を活用した滞在制作を行い、その成果を公開するとともに、地域のアーティストや地域住民と連携した様々なイベントを実施した。地域との連携・協働により、滞在制作作品の常設化や文化芸術体験メニューの創出などの成果に繋がり、地域の活性化や誘客促進にも効果があった。今後は、地域との連携・協働をより促進し、文化芸術による地域の活性化につなげていく。</p>	2

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 スポーツ振興課	オリンピック・パラリンピアン育成事業	実施目的 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に、一人でも多くの本県選手の輩出を目指し、強化指定選手に対し育成に必要な支援を多角的に行う。また、指導力の向上を図ることで、トップアスリートの育成環境を整備する。	2
		成果・課題 オリンピック27名、パラリンピアン6名を指定したところ、日本代表、代表候補にオリンピック16名、パラリンピアン2名が選出され、その内2名が東京五輪内定を決めたほか、複数の強化指定選手が、代表選考会・合宿等に参加した。 また、19名の指導者を指定し、国内のトップチーム・指導者の指導法、戦術等を学んだ。	

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 スポーツ振興課	オリンピック等キャンプ誘致推進事業	実施目的 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、県民のスポーツへの関心が高まる中、オリンピック等の事前キャンプ誘致を実現することにより、スポーツに関する情報発信やスポーツ施設を活用した地域交流の促進と県外からの誘客による地域活性化を図る。	4
		成果・課題 キャンプ誘致については、これまでに12件の事前キャンプの協定を締結した。 新型コロナウイルス感染症の影響によるオリンピックの延期を受け、協定を締結した国・地域を中心に相手方関係団体と緊密に連携し、改めて受入準備を行った。	

平均	3.0
----	-----

4 施策達成レベル

3.4	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

文化施策では、文化芸術アソシエイツによる東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化団体等への活動支援を通じた文化プログラムへの参画促進や、地域資源を活用したアーティストの滞在制作事業の実施など、地域の魅力をアートの視点から発信した。

また、スポーツ施策では、オリンピック・パラリンピアン育成事業において、オリンピック27名、パラリンピアン6名を指定したところ、18名が日本代表、代表候補に選出され、そのうち2名が東京五輪内定を決めた。また、積極的なキャンプ誘致活動の結果、12件の事前キャンプが決定し、累計で36件のナショナルチーム等の県内合宿を実現した。

6 今後の施策推進に向けての課題

文化施策においては、おかやま文化芸術アソシエイツの機能の活用による県内の文化団体等への相談対応や活動支援、アーティストの滞在制作事業の実施による地元住民をはじめ関係団体等との協働を引き続き取り組むことにより、地域活力の醸成に努めていく必要がある。

また、スポーツ施策においては、東京オリンピックに本県から一人でも多くの選手を輩出するため、競技団体等と連携を図りながら、強化指定選手や指導者に対して、選手育成に必要な支援を多角的に行っていく必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 教育委員会 生涯学習課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム
施策名	【重点】生涯学習活動の推進

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○公立図書館から借りた本の数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	6.60	6.75	6.90	7.00
現況値	6.54冊(2015年度)	実績値	6.70	6.55	6.60	5.95
目標値	7.00冊	達成率	101.5%	97%	95.7%	85%
備考	県民1人当たりの貸出冊数	達成度	※5	3	3	※1

3 事務事業評価

教育委員会 生涯学習課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	県立図書館資料整備	<p>実施目的 県立図書館は、県民からのあらゆる資料要求に応える資料蓄積の県内の最後のよりどころとして、また、市町村立図書館のサービス活動を支える資料情報センターとしての機能を果たす必要があることから、新刊図書 of 積極的収集を継続的に行うとともに、図書館未設置地域や学校教育を支援する図書の整備を図る。</p> <p>成果・課題 図書資料等の単価が高騰する中、昨年度に引き続き、効率的な収集に努めた結果、新刊図書の収集率は、前年度と同程度を維持することができた。2021年度は資料費が減少するため、資料収集方針・基準に基づき、より厳正な選定を行い、利用者のニーズを踏まえつつ、県立図書館として必要な資料の収集維持が課題である。</p>	3
教育委員会 生涯学習課	生涯学習センター学習講座の開設	<p>実施目的 県民が自分に適した学習内容を選択できるように、学習講座を開設し多様な学習機会を提供する。</p> <p>成果・課題 主催講座1コースの受講者84人は、全員が新規入学者であった。連携講座は83機関の協力を得て、531講座で多様な学習機会を提供することができた。連携講座において、生涯学習大学の説明や単位取得の申請を呼びかけるとともに、新たにオンライン講座を連携講座として、登録を進めたところ、69人が入学した。全体で153人の新規入学者数になり、目標を達成することができた。</p>	5
平均			4.0

4 施策達成レベル

1.6	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

新型コロナウイルス感染症の影響により、県立図書館の利用状況は前年の8割程度の水準となったが、公共図書館や学校図書館への積極的な貸出をすすめるとともに、非来館型サービスの周知を図り、学びの機会の提供に努めた。生涯学習大学においても、同様に、参集型の連携講座が減少する中、オンライン講座の連携講座登録を促進し、多様な学びの機会を確保し、コロナ禍における豊かで潤いのあるくらしの創出に向けて、貢献することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

地域づくりの担い手として、学習者の多様な学びの成果を地域社会に還元できるよう、成果の活用に向けた取組の推進が必要である。また、図書資料費が減少する中、県立図書館として必要な資料の収集維持が課題である。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 環境文化部 スポーツ振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム
施策名	【推進】 トップアスリートの育成・強化等の推進

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 スポーツ振興課	オリンピック・パラリンピアン育成事業	実施目的 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に、一人でも多くの本県選手の輩出を目指し、強化指定選手に対し育成に必要な支援を多角的に行う。また、指導力の向上を図ることで、トップアスリートの育成環境を整備する。	2
		成果・課題 オリンピック27名、パラリンピアン6名を指定したところ、日本代表、代表候補にオリンピック16名、パラリンピアン2名が選出され、その内2名が東京五輪内定を決めたほか、複数の強化指定選手が、代表選考会・合宿等に参加した。 また、19名の指導者を指定し、国内のトップチーム・指導者の指導法、戦術等を学んだ。	
環境文化部 スポーツ振興課	ステップアップ おかやまアスリート事業	実施目的 国体正式競技でありながら、競技人口が少なく、普及に窮している競技団体もある。全体的な競技力の向上には、この部分の底上げは欠かせないことから、競技団体と連携して、競技者確保に努める。	2
		成果・課題 新型コロナウイルス感染症対策の基本を徹底して、県主導体験会を4競技団体と共同で8月、9月に実施し、小学4年生から6年生延べ約60名の児童が複数競技を体験した。他方、競技団体主導体験会等については、実施に向けて競技団体と協議を重ねたが、新型コロナウイルス感染症の影響で日程的な見通しが立たず、実施に至らなかった。	
平均			2.0

4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

<p>「ステップアップ おかやまアスリート事業」では、競技人口が少なく、競技普及に窮している競技団体と共同で体験会を実施し、2回で延べ約60名の児童がマイナースポーツを体験した。 「オリンピック・パラリンピアン育成事業」では、強化指定選手2名が東京オリンピックの出場権を獲得するとともに、複数の選手が出場権獲得に向けて、代表選考会・合宿等に参加した。</p>

6 今後の施策推進に向けての課題

新型コロナウイルス感染症の見通しは不透明なため、競技団体と連携して、状況に対応しながら、施策を推し進めていくことができるノウハウを蓄積する。
また、少子化の影響で多くの競技団体が競技者確保に窮していることから、事業を通して、競技団体の普及活動が促進されるように努める。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 県民生活部 県民生活交通課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム
施策名	【推進】さまざまな分野におけるボランティア活動の支援

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 県民生活交通課	ボランティア・NPO活動支援センター関係事業	実施目的 岡山県ボランティア・NPO活動支援センター(愛称:ゆうあいセンター)の各種事業を総合的かつ計画的に実施し、ボランティア・NPO及びコミュニティ活動を促進することを目的とする。	2
		成果・課題 同センターの運営については、指定管理者制度により、県民サービスの向上と経費縮減を図るとともに、指定管理者において、各種相談への対応や活動情報の提供、研修などを通じて、ボランティア・NPOおよびコミュニティ活動の促進を支援した。	

平均	2.0
----	-----

4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

ボランティア・NPO活動支援センターにおいて、指定管理者制度により、県民サービスの向上と経費縮減を図るとともに、指定管理者において、ボランティア・NPO活動を支援するための特定事業及び自主事業を効率的かつ効果的に行ったが、新型コロナウイルスの影響により、国の緊急事態宣言に伴う臨時休館や利用者数の減少などの状況が生じたため、2020年度の利用者数は目標を下回る32,396人となり、利用料金収入の額も会議室等の利用率が減少し前年度を下回った。

6 今後の施策推進に向けての課題

ボランティア・NPO活動支援センターの運営や事業内容の充実に努め、ボランティア・NPOに対しウィズコロナの視点も含めた効果的な情報提供、相談等を行うとともに、これらを支援する組織・団体のネットワーク化を進める必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	県民生活部 男女共同参画青少年課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造	
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム	
施策名	【推進】「男女が共に輝くおかやまづくり」の推進	

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 男女共同参画青少年課 男女共同参画ゼミナール事業	実施目的 男女共同参画の視点を持った人材等地域リーダーを養成するとともに、男女共同参画に関する地域間格差の是正を図るため、地域リーダーのネットワークづくりを推進する。	3
	成果・課題 新型コロナウイルス感染症の影響により、開催時期を9月～10月へ変更し、対象者についても市町村職員に限定して実施した。地域団体や企業など、受講者の裾野を広げていくことや修了者のフォローアップが必要である。	

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 男女共同参画青少年課 ウィズカレッジ事業	実施目的 男女共同参画社会の形成に向け、男女が社会の対等なパートナーとして仕事と生活を調和させ、さまざまな活動に共に参画できるよう、啓発・意識改革を推進する。	3
	成果・課題 新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座の要望が大幅に減少した。また企画講座についても会場参加者数は減少したが、別途ウェブ観覧を設けたことにより幅広い層の参加があった。また参加者の満足度は高く、新たな実施形態の確立にも繋がった。	

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 男女共同参画青少年課 DV対策	実施目的 県民に対しDVへの認識を深め、男女間のあらゆる暴力を許さない社会づくりに向けた一層の意識啓発と、DV被害者の自立に向けて、民間との協働によるさまざまな支援を行う。	3
	成果・課題 新たに、和気町がDV防止基本計画を策定した。引き続き、未策定の市町村に対し、個別に働きかけを行う。民間団体と協力してDV被害者の休日電話相談、自立支援等事業を実施した。自立支援等事業のDV被害者の子どもサポート事業について様々な体験学習の場を設けるなどすることで参加者が前年に比べ増加した。	

平均	3.0
----	-----

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

ウィズセンターの男女共同参画社会の実現に向けた各種講座を通じて、性別による固定的な役割分担意識をなくすなど、男女共同参画の一層の啓発を進めるとともに、男女間の暴力を許さない社会づくりに向けた啓発や被害者の支援に取り組んだ。

6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き、男女共同参画社会の実現に向けた講座の開催等を通じ、意識啓発を推進する必要がある。また、男女間の暴力の根絶に向け、関係機関と連携し、啓発や被害者支援に取り組む必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 環境文化部 文化振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム
施策名	【推進】文化創造活動の振興

2 生き活き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

環境文化部 文化振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	普及教育事業費	実施目的 県立美術館の作品に触れる機会を増やし、県民の文化鑑賞と体験機会の充実を図り、文化力の向上に努める。	成果・課題 美術館講座や講演会、フロアレクチャー、ワークショップ等を実施することにより、県立美術館に訪れ、作品に触れる機会を増やすなど、多彩なアプローチを実施した。	2

環境文化部 文化振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	県立美術館魅力UP事業	実施目的 県立美術館の入館者数は近年減少が続く、入館者、特に若い世代への来館を促進する取組が必要であるため、美術館の魅力の発信や県民・観光客への広報の充実、きめ細かいサービスの提供等により、常設展をはじめ美術館自体の魅力向上を図り集客につなげる。	成果・課題 魅力発信スタッフを活用することにより、美術館ホームページの逐次リニューアルや、SNSを通じて若者に向けた情報発信を強化することができた。一方で、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、託児や手話付きフロアレクチャー等の実施を見送った。	3

平均	2.5
----	-----

4 施策達成レベル

2.5	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

美術館ならではの学びができる各種プログラムを企画、実施し、多くの県民の方々に対して、「つくる」活動、「みる」活動など、文化体験の機会を提供することにより、作品や美術に対する理解を深め、美術館に親しんでもらうことができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

若い世代への美術館教育について、学校と美術館が恒常的に連携していくことが必要であり、教育ツールとしての美術館活動につなげるのが重要である。さらに今後は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を取りながら、県民の来館の機会を増やすため、より展示内容や関連事業の充実を図るとともに、情報とサービスの積極的な提供を行い、魅力ある美術館づくりに取り組む。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 保健福祉部 長寿社会課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム
施策名	【推進】高齢者の生きがいづくりと社会参加活動の促進

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
保健福祉部 長寿社会課	老人クラブ活動等 社会活動促進事業	実施目的 高齢者が生きがいを持って活躍するよう、老人クラブが行う社会奉仕活動や健康づくりのための事業などを支援する。	3
		成果・課題 岡山市、倉敷市を除く25市町村の単位クラブや市町村老人クラブ連合会、県老人クラブ連合会が行う子育て支援活動や健康づくり事業などに要する経費を助成し、高齢者の社会参加を促進した。今後とも、高齢者が生きがいを持って活躍する地域社会の形成をするため、高齢者の生きがいづくりや社会参加の促進に向け、支援を行っていく必要がある。	

平均	3.0
----	-----

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

見守り・子育て支援活動などの社会貢献や健康ウォーキングや介護予防などの健康づくりに主体的に取り組む老人クラブへの活動支援を行うことにより、高齢者の生きがいづくりと社会参加活動の推進を図った。

6 今後の施策推進に向けての課題

高齢者の生きがいづくりと社会参加活動を一層促進していくため、これらの活動に主体的に取り組む老人クラブの支援を通じ、クラブの魅力アップに取り組むとともに、市町村等と連携しながら、クラブの活動内容の周知などにより活動への参加促進を図っていく必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 県民生活部 人権施策推進課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム
施策名	【推進】人権尊重の社会づくりの推進

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
教育委員会 人権教育・生徒指導課	人権教育指導者養成講座	実施目的 様々な人権問題の解決に向けて、人権問題相互の関連を図り、自らの課題として日常生活の中に生かせる人権感覚を身に付けるための教育・啓発活動を一層推進するため、深い認識と実践力をもった指導者の養成を行う。	4
		成果・課題 人権教育・啓発の中心となる指導者養成講座Ⅰを実施し、さらに講座修了者を対象にしたスキルアップ講座Ⅱを実施した。講座Ⅰは27人修了、講座Ⅱは28人受講しており、講座の周知や柔軟な受講体制などの工夫で、目標を上回る人数の修了につながった。今後も、受講者数を増やすために、講座内容の充実や日程の工夫等が必要である。	
県民生活部 人権施策推進課	人権啓発研修事業	実施目的 人権についての正しい理解と認識を深めるために、各種人権研修を実施する。	2
		成果・課題 県が開催し、又は企業・団体等の開催を県が支援した人権研修会を2,618人の県職員及び県民等が受講しており、人権についての正しい理解と認識を深めることができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見合わせた研修会もあり、目標を達成できなかった。今後の体系的な人権研修の実施に向けて、研修会の開催方法を検討する必要がある。	
平均			3.0

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

一定数の方が人権研修会を受講しており、人権についての正しい理解と認識を深めることができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

より多くの方が各種人権研修を受講するよう啓発等に努める必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	土木部 道路整備課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造	
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム	
施策名	【推進】おかやまアダプトの推進	

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
土木部 道路整備課	おかやまアダプト 推進事業	実施目的 住民グループ等と県・市町村との協働の下で、道路、河川、海岸及び公園の環境美化を推進することにより、美しい公共空間の創造や環境保全意識の高揚を図る。	4
		成果・課題 多くの方の参加を得て、地域の共有財産である道路、河川、海岸及び公園への愛着心が深まるとともに、公共施設利用者のマナー向上が図られている。構成員の高齢化や人数の不足等により活動を終了する団体が増えており、今後もこの状況は続くと思込まれることから、事業が持続可能なものとなるよう対応を検討する必要がある。	

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

おかやまアダプト推進事業を通じ、地域の共有財産である道路、河川、海岸及び公園（公共施設等）の清掃美化活動に取り組む県民は、近年やや減少傾向にあるものの、新たに参加する県民もいることから、公共施設等への愛着心を深めるとともに、公共施設利用者のマナー向上が図られている。

6 今後の施策推進に向けての課題

構成員の高齢化や人数の不足により活動を終了する団体が増えており、今後もこの状況は続くと思込まれることから、事業が持続可能なものとなるよう対応を検討する必要がある。